

# 企業だって 森づくり♪

NDソフトウェア株式会社 編 with 大学コンソーシアムやまがた



よつになりました。安全第1を心がけてのことですが、気を付けるべきポイントを押さえてきたんだと思います。

— 今後の抱負を 願います。

森づくりを通じて地域との絆を結び、地域の発展や環境の保全をお手伝いしたいと思い、始めた活動です。きれいになった森を使って地域の皆さんと交流できるイベントなどを催せたらうれしいです。そして、ハイジパークと一体となった、こもれび溢れる癒しの空間を創っていききたいと思っています。

## あなたは何を見つけましたか？

森と関わるには人間と同じ時間の速度で考えてはいけなかった。このような活動をしている人たちがいることを私も伝えていきたいです。



山形大学 人文学部 2年 久間木 美咲 さん

森づくりがこんなに大変だとは思っていませんでした。見るだけでなく体験すること、そしてチームで作業することの大切さを学びました。



山形大学 農学部 1年 佐藤 和人 さん

幼稚園教諭を目指しています。将来は子どもたちと森にきて素晴らしい時間を伝えたいと思います。



東北文教大学 人間科学部 3年 青柳 美音 さん

丸太の運び方や鎌の使い方のアドバイスを受けてコツがつかめたときは自分が成長したように感じました。講義が終っても参加させてください。



山形大学 農学部 1年 田中 元久 さん

新しい道を切り開いていく作業には戻りましたが道が開けた時の達成感は格別でした。森の中で体を動かすことで「森」と「私」の距離が近くなった気がします。



東北文教大学 人間科学部 3年 阿部 由佳 さん

授業で習ったナラ枯れに興味があったのでこの講義を受講しかけることがちょっと苦手でしたが皆さんに暖かく接していただきました。



山形大学 農学部 1年 菅野 孝盛 さん



山形大学 プロジェクト教員 博士(農学) 滝澤 匡 さん

4ヶ月に渡り継続的に森に入ること、学生たちは季節の移ろいを感じつつ、草木の生長と戦う森林整備作業の大変さを理解したと思います。そして、この山形の豊かな自然は人の手によって守り続けなければならないなど環境に対する新しい意識も芽生えたようです。この森づくりを経験した彼らの中から、将来の山形の森を担う人材が生まれることを期待します。

早く学生を受け入れて下さったNDソフトウェア株式会社並びに関係者の皆様に心から感謝いたします。



NDソフトウェア株式会社(南陽市)では、平成23年4月からハイジアパーク南陽に隣接する市有林に「NDソフトこもれびの郷」を設定し、地域との結びつきを大切にしながら活動を進めています。

コンセプトは「森から生まれたものは森に帰す、森で使う」。

やぶを切り開いて歩道を作ったり、背丈まで伸びている下草を刈ったり、薪を集めたりする活動は今年で3

年目を迎えています。集めた薪は地域の皆さんに提供されるなど地元でも定着してきました。

今年、新しい取組みとして県内の大学機関で組織する大学コンソーシアムやまがたの講義「社会人力育成山形講座」を受講する学生6名を受け入れ、社員とチームを組んで森づくり活動を行い、チームワークやコミュニケーション力を学生たちに伝授しました。

## 担当者の声



NDソフトウェア(株) 三本 学 さん[左] 鈴木 清人 さん[右]

— 大学生の受け入れ、いかがでしたか？

正直ドキドキでした。でも、それを見せないのも社会人ですから(笑)。受け入れる私たちも面白い刺激をもらったと思ってます。1回目ではお互い緊張していましたが、作業を進めるうちに徐々に打ち解けて距離も縮まったよつです。

— 学生さんに対する 感想は？

私たちの活動は、涼しいうちに作業を終わすために朝7時に始めてお昼までとしています。授業とはいえず山形から来るのは大変だったと思いますよ。でも、がんばってくれ

— 社員の皆さんの反応は、いかがでしたか？

若い社員の参加が増えました。学生さんのおかげですね。これをきっかけに社内の参加人数が増えればうれしいです。大学コンソーシアムの講義は8月で終わりましたが、社員も名残惜しそうです。顔を見ればわかります(笑)。このあとも、この森でいっしょに汗を流したいですね。

運営する私たちも勉強になりました。重い丸太を持つたりする山仕事は、経験がないと余計な力が入って疲れるものです。チームリーダーがそんな各人のコンディションに気を配り、以前よりみんなの動きをみて早めに休憩時間をとったりする

ました。

作業回数が進むと、チーム内での自分の役割を考えて動いている姿やチームリーダーから多くのことを学びとろうとする積極的な姿勢が見られました。彼らにとつて私たちがいつしよに作業することが糧になっていると思うと受け入れ側としても嬉しいですね。

あと、彼らの山仕事の服装がだんだん板についてきたのも頼もしかったです。